



第40期 中間報告書  
[2024.2.21.～2024.8.20.]

～ Doing it ～

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために



パレモ・ホールディングス株式会社

証券コード:2778



## 40周年にあたる今期を、 パレモ・ホールディングスの次なる成長の起点へ

当社グループにおきましては、黒字化からの次なるフェーズへと成長させるべく、今期を初年度とする3ヶ年の「新中期経営計画」をスタートしており、アパレル、雑貨における収益の二本柱体制の確立に向け、グループをあげて取り組んでおります。また、本年9月17日に開示しました通り、主要取引銀行をアレンジャーとするシンジケートローン契約により、20億円の資金調達を可能にしたほか、5億円のコミットメントライン契約を別途締結したことにより長期的な資金繰りの安定化を実現するなど、次なる成長に向けた経営基盤の強化にも努めております。

代表取締役社長 **福井 正弘**

指針 **正しい経営** | **ローコスト経営**  
**安定成長** | **人財経営**

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社グループ第40期中間報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

この第40期中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用、所得環境の改善やインバウンド需要の増加などにより景気は緩やかな回復基調となりました。その一方で、中東、ウクライナなどの地政学リスクの長期化や不安定な為替変動のほか、原材料価格の高騰による物価上昇や金利の上昇など、依然として景気の先行きは不透明な状況が継続しております。

当社グループが属する専門店業界におきましては、コロナ禍を経て、サステナビリティの観点からもシーズンレス商品を増やすことで、気候変動に対応した品揃えにシフトし在庫抑制を図るなど、過剰供給への対応が進む傾向となりました。また、消費行動はリアル店舗での購買が回復し、店頭販売だけでなく、OMO（デジタルとリアルの融合）対策としてのSNS活用の必要性も高まり、人材の確保と育成が課題となっております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、コロナ後の社会情勢の変化や当社が属する専門店業界を取り巻く競争状況の変化も踏まえ、3ヶ年の「新中期経営計画」に取り組むことで、安定的な収益の二本柱体制（アパレル、雑貨）を

確立させるとともに、成長モデルの再構築に向けた取り組みを推し進めるなど、企業価値の向上を目指しております。

当中間連結会計期間は、記録的な猛暑を背景に、アパレル、雑貨における夏シーズン商品の販売が好調に推移したものの、店舗数減少による売上高の減収に加え、賃金の引き上げに伴う人件費等の上昇もあり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益についても、期初の計画を下回る結果となりました。

下半期におきましては、これまでの取り組みを基盤として、収益の改善が進んだアパレルにおけるトップラインの向上と、雑貨におけるマーケット環境の変化に対応した商品MD（マーチャンダイジング）の再構築を図り、EC（ネット通販）をはじめとした成長事業への投資を継続することにより、収益の二本柱体制を確かなものにしてまいります。

そして今後も当社グループにおきましては、引き続き企業の社会的使命を重視するとともに、企業統治並びにコンプライアンス体制の強化など企業の質的向上にも努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も当社グループの事業戦略に、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### Q1 当中間連結会計期間の業績についてお聞かせください

当中間連結会計期間の業績は、売上高78億34百万円(前年同期比6.9%減)、営業利益2億62百万円(前年同期比42.2%減)、経常利益2億49百万円(前年同期比42.9%減)となり、親会社株主に帰属する中間純利益は、減損損失を1億43百万円計上したことにより1億5百万円(前年同期比79.3%減)となりました。

当中間連結会計期間のアパレルにおきましては、梅雨明け以降、西日本を中心に猛暑日の年間最多記録を更新するほか、全国的に猛暑が続いたこともあり、夏物、盛夏物を中心にカットソー、ブラウスなどの需要が高まり、販売の拡大につながりました。

雑貨におきましては、300円均一ショップ「illusie300(イルーシーサンマルマル)」における暑さ対策商品や、紫外線防止、冷感素材等の機能性商品が販売好調であったものの、生活雑貨商品の伸び悩みに加え、競合他社の出店急拡大の影響から苦戦傾向となりました。その他、当中間連結会計期間につきましては、消費者の節約志向の高まりや、前年の新型コロナウイルス感染症5類移行後の外出需要拡大の反動に加え、台風や大雨の影響等により客数が伸び悩んだことから、全社の既存店売上高前年同期比は96.1%となりました。

利益面におきましては、アパレルにおいて、お客様のニーズに応じた価値訴求型の商品提案を強化するとともに、値下げ販売の抑制からプロパー消化率も高まるなど一定の成果をあげることができました。また、適正な仕入れ、在庫コントロールによるガバナンス体制の取り組みが機能し、夏シーズン商品の販売も計画通り進み、在庫処分抑制も図られ利益確保に貢献できました。一方、雑貨の「illusie300」につきましては、売上高の減収に加え低単価による価格転嫁の難しさから、継続的に原価高騰の影響を受けることとなりました。

売上総利益率につきましては、期初計画から0.4%、前年同期に比べても0.5%上回る52.8%の着地となりました。また経費面におきましては、「新中期経営計画」を進める中、不採算店舗の退店を継続して実施するとともに、本社、本部経費についても徹底した削減に努めてまいりましたが、当中間連結会計期間は人材の確保、維持の観点から賃金の引き上げに伴う人件費等の上昇もあり、営業経費は前年同期比98.0%となり、金額にして77百万円の削減にとどまりました。

店舗の出退店におきましては、主要ブランドの1つであるラージサイズの「Re-J & SUPURE(リジェイアンドスプル)」、雑貨の「illusie300」をそれぞれ1店舗出店し、不採算店舗の退店に加え契約満了に伴う15店舗の退店をした結果、当中間連結会計期間末現在の店舗数は264店舗となりました。

当中間連結会計期間におきましては、想定以上の店舗数減少に加え、雑貨における生活雑貨商品の伸び悩みもあり苦戦傾向となりましたが、この下半期におきましては、アパレルにおけるトップラインの向上と雑貨における商品MD(マーチャндаイジング)の再構築を図り、「新中期経営計画」最終年度の目標達成に向け収益基盤の構築に努めてまいります。

### Q2 「新中期経営計画」における、下半期施策についてお聞かせください

下半期におきましては、引き続き「新中期経営計画」に則り、黒字化からの次なるフェーズへと成長させるべく、アパレル、雑貨における収益の二本柱体制の確立に向け、「成長戦略」、「ガバナンス強化」、「社内インフラ/労働環境の改善」の3つに対し、重点的に取り組んでまいります。

「成長戦略」につきましては、アパレルのリアル店舗とEC(ネット通販)との連携強化を目的に、新規出店や既存店舗の改装、商業施設のリニューアルに合わせ、主要ブランドであるレギュラーサイズの「LUDIC PARK(ルディックパーク)」、ラージサイズの「Re-J & SUPURE(リジェイアンドスプル)」にブランドを統一し認知度を高めてまいります。また、EC発のZ世代向けブランド「NOEMIE(ノエミー)」につきましては、引き続きリアル店舗とECの相互送客を進めるとともに、更なる売上規模拡大に向け越境ECへの取り組みも本格化させるなど、アパレルの成長ドライバーへと進化させてまいります。そして雑貨の300円均一ショップ「illusie300(イルーシーサンマルマル)」につきましては、継続的に新規出店を進めるほか、マーケット環境の変化、立地、客層に合わせた商品MD(マーチャндаイジング)の再構築、売上上の基軸となる生活雑貨商品の品揃え強化を図るなど、既存店舗の活性化にも努めてまいります。

「ガバナンス強化」につきましては、アパレルにおける安定的な売上と利益確保が進んでおりますので、課題となっている雑貨の「illusie300」を中心に、仕入先との関係強化、新規取引先の開拓に取り組むほか、自社企画商品による競合他社との差別化を図ってまいります。引き続き、アパレル、雑貨ともに気候変動による商品MDの見直しや、原価高騰に伴う適切な価格転嫁への対応を踏まえ、ホールディングス、事業会社一体となって適正な仕入れ、在庫コントロールの精度を高めることにより業績の向上に努めてまいります。

「社内インフラ/労働環境の改善」につきましては、「社内インフラの改善」として、商品・顧客管理、そして仕入れ・発注業務に関する基幹システムのリプレイスを進め、アパレルではリアル店舗とネット通販におけるOMO(デジタルとリアルの融合)への取り組みを強化するほか、雑貨については単品管理、個店対応の精度向上に努めてまいります。また、「労働環境の改善」につきましては、引き続き深刻な人手不足に対応した賃金の見直し並びに処遇改善を推進するとともに、販売サービスレベルの向上と作業削減に伴う店舗運営の効率化を実現するため、デジタルツールを活用した様々なオペレーション改革を継続するなど、持続的安定成長への基盤構築に注力してまいります。

以上、この下半期におきましては、マーケット環境変化への対応、物価高騰による生活防衛意識の高まり等、引き続き厳しい環境が続くことを前提に、今期の業績予想につきましては、売上高153億70百万円(前年同期比3.6%減)、営業利益3億65百万円(前年同期比0.7%増)、経常利益3億5百万円(前年同期比9.3%減)、親会社株主に帰属する当期純利益1億75百万円(前年同期比57.5%減)を見込んでおります。



## LUDIC PARK ルディックパーク

ファッションを楽しみたい大人の女性に、スタイリッシュなリラックスカジュアルを提案します。



## NOÉMIE ノエミー

普段も特別な日もかわいくいたい。扉を開くたびに“ときめきを感じる”お洋服で、クローゼットをいっぱいになりたい。そんな、あなたの願いに寄り添えるように“愛らしくて愛嬌のある魅力的な女の子”をテーマに、お砂糖菓子みたいな甘さと、ちょっぴりダークでかわいらしさのあるお洋服をあなたに提案します。

## アパレルの概況

アパレルにおきましては、リアル店舗とEC(ネット通販)との連携強化並びに新規出店と既存店舗の改装により収益の拡大に努めております。新規出店におきましては、ラージサイズの「Re-J & SUPURE(リジェイアンドスプル)」の1店舗となりましたが、既存店舗の改装として「LUDIC PARK(ルディックパーク)」へのブランド変更を3店舗、雑貨から「NOEMIE(ノエミー)」への業態変更を1店舗実施するなど、主要ブランドへの集約を進めております。

この下半期におきましても、改装による既存店舗の活性化を積極的に進めるとともに、引き続きOMO(デジタルとリアルの融合)を推進し、更なる成長につなげてまいります。

## アパレルブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当中間連結会計 期間末店舗数
レギュラー店舗	0	5	1	101
ルディックパーク	0	2	3	33
リルデシュシュ	0	0	0	2
デジメリー	0	0	△1	2
リシェリエ、ドスチ	0	0	△2	17
ギャルフィット、ススタン他	0	3	0	40
ハレノヒ	0	0	0	5
ノエミー	0	0	1	2
ラージサイズ店舗	1	0	0	10
<b>アパレル合計</b>	<b>1</b>	<b>5</b>	<b>1</b>	<b>111</b>

注:当中間連結会計期間末店舗数に催事店舗は含まれておりません。



## Re-J & SUPURE リジエイ アンド スプル

「ぼっちゃり女子」の「かわいいがずっとみつかる♪毎日おしゃれを楽しみたいという願いが叶えられる♪」をコンセプトにしたセレクトショップです。今すぐ欲しいトレンドアイテムからドレスまで様々なシーンで着てもらえるお洋服・雑貨・ランジェリーをLL～4Lサイズを中心に品揃えしております。

## DAISY MERRY

デイジーメリー

かわいいだけでなく、どこかボーイッシュ、ほんのりガーリーと、遊び心を取り入れた今欲しいリアルクローズを手頃なプライスで提案します。

## Lilou de chouchou

リルデシュシュ

エレガンスをベースに程よくトレンドを織り交ぜながらON&OFFあらゆるシーンも自分らしく楽しめる上品で女性らしいファッションを提案します。

## SUZUTAN

スズタン

「エレガンス&フェミニン」をテーマに、幅広い客層へ最新トレンドと着まわしのきくベーシックアイテムを提案します。

## Hare no hi

ハレノヒ

「ナチュラルライフ」をテーマに、アパレル、雑貨をトータルにコーディネート。ライフスタイルを提案します。

## Recherie

リジェリエ

「フェミニン」をキーワードに、ベーシックでリラックス感のある大人のカジュアルスタイルを提案します。

## GAL FIT

ギャルフィット

「フェミニン&クール」をテーマに、リラックス感のあるカジュアルスタイルとエッジの効いたモードスタイルを提案します。



## illusie300

イルーシーサンマルマル

「日常に彩り」をテーマに、300円中心のプチプライスでライフスタイルを提案します。

## INCENSE

インセンス

「MY BAGを探し楽しさや、見つけた時の喜びを共有できるBAG SHOP」。自分のスタイルを確立した大人の男女に、「オンリーワン」のバッグを提案します。

## 雑貨の概況

雑貨におきましては、基軸となる生活雑貨商品の品揃えの充実を図り、収益の改善に努めております。新規出店におきましては、300円均一ショップ「illusie300(イルーシーサンマルマル)」の1店舗となりましたが、正規契約を見据えた短期契約での催事出店を3店舗実施するほか、既存店舗の改装を2店舗実施するなど、出店強化と既存店舗の活性化にも努めております。

この下半期におきましても、引き続きマーケットニーズに適應した品種構成の見直しと、生活雑貨商品の品揃えの充実を図り、既存店舗の活性化、収益の改善を進めてまいります。

## 雑貨ブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当中間連結会計 期末店舗数
イルーシーサンマルマル	1	10	△1	141
インセンス	0	0	0	9
シベレット	0	0	0	1
雑貨合計	1	10	△1	151
複合店(※)	0	0	0	2
全社合計	2	15	0	264

(※) 複合店とは、アパレル、雑貨のブランドを複数合わせた店舗です。

# 中間連結財務諸表

Financial  
Statements

## 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当中間連結会計期間 (2024年8月20日現在)	前中間連結会計期間 (2023年8月20日現在)	前連結会計年度 (2024年2月20日現在)
<b>■資産の部</b>			
流動資産	5,351	5,826	5,631
固定資産	2,610	3,099	2,794
有形固定資産	598	909	773
無形固定資産	32	45	34
投資その他の資産	1,980	2,145	1,987
<b>資産合計</b>	<b>7,962</b>	<b>8,925</b>	<b>8,426</b>
<b>■負債の部</b>			
流動負債	5,703	6,628	6,246
固定負債	525	557	537
<b>負債合計</b>	<b>6,228</b>	<b>7,185</b>	<b>6,783</b>
<b>■純資産の部</b>			
株主資本	1,720	1,726	1,629
資本金	100	100	100
資本剰余金	2,220	2,234	2,234
利益剰余金	△594	△602	△700
自己株式	△5	△5	△5
新株予約権	13	13	13
<b>純資産合計</b>	<b>1,733</b>	<b>1,739</b>	<b>1,642</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>7,962</b>	<b>8,925</b>	<b>8,426</b>

## 中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	当中間連結会計期間 〔2024年2月21日から 2024年8月20日まで〕	前中間連結会計期間 〔2023年2月21日から 2023年8月20日まで〕	前連結会計年度 〔2023年2月21日から 2024年2月20日まで〕
<b>① 売上高</b>	<b>7,834</b>	<b>8,412</b>	<b>15,941</b>
売上原価	3,701	4,009	7,663
<b>売上総利益</b>	<b>4,133</b>	<b>4,402</b>	<b>8,277</b>
販売費及び一般管理費	3,870	3,948	7,915
<b>② 営業利益</b>	<b>262</b>	<b>454</b>	<b>362</b>
営業外収益	6	6	21
営業外費用	19	23	48
<b>経常利益</b>	<b>249</b>	<b>437</b>	<b>336</b>
特別利益	2	83	256
特別損失	162	26	142
<b>税金等調整前 中間(当期)純利益</b>	<b>89</b>	<b>494</b>	<b>449</b>
法人税、住民税及び事業税	6	6	12
法人税等調整額	△21	△21	25
<b>親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益</b>	<b>105</b>	<b>508</b>	<b>411</b>

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当中間連結会計期間 〔2024年2月21日から 2024年8月20日まで〕	前中間連結会計期間 〔2023年2月21日から 2023年8月20日まで〕
<b>③ 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>88</b>	<b>415</b>
<b>④ 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△27</b>	<b>△48</b>
<b>⑤ 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△499</b>	<b>△584</b>
現金及び現金同等物の増減額	△438	△217
現金及び現金同等物の期首残高	2,945	3,044
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,506	2,826

### ▶ POINT

- 売上高は前中間連結会計期間に比べ5億77百万円減少の7億834百万円となりました。これは主に、気温の上昇に伴い夏シーズンアイテムの販売が好調に推移したものの、営業店舗数が前年に比べ大幅に減少したことや、雑貨における売上高の減収によるものです。
- 営業利益は前中間連結会計期間に比べ1億91百万円減少の2億62百万円となりました。これは主に、営業店舗数の減少による売上高の減収に加え、賃金の引き上げに伴う人件費等の上昇によるものです。
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、88百万円の収入となりました。これは主に、売上債権2億94百万円の増加があったものの、税金等調整前中間純利益89百万円の計上に加え、減価償却費92百万円及び減損損失1億43百万円の非資金項目の調整によるものです。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、27百万円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出28百万円によるものです。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、4億99百万円の支出となりました。これは主に、借入金の返済による支出4億85百万円によるものです。

### 売上高 (百万円)



### 営業利益 (損失) (百万円)



### 親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益 (損失) (百万円)



## 会社概要 (2024年8月20日現在)

社名	パレモ・ホールディングス株式会社
設立	1984年11月22日
資本金	1億円
本社所在地	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅五丁目27番13号 名駅錦橋ビル6F
従業員数	1,512名(グループ含む) (ナショナル社員130名、エリア社員他1,382名)
事業内容	事業子会社の経営管理等
ホームページ	<a href="https://www.palemo.co.jp/">https://www.palemo.co.jp/</a>

## 役員 (2024年8月20日現在)

代表取締役社長	福井正弘
取締役	香西雅弘
取締役	永田昭夫
取締役	田村富美子
常勤監査役	土田新一郎
監査役	今枝剛
監査役	川口直也

注:取締役のうち、永田 昭夫、田村 富美子の両氏は社外取締役であります。  
監査役のうち、今枝 剛、川口 直也の両氏は社外監査役であります。

## 株式情報 (2024年8月20日現在)

発行可能株式総数	普通株式	27,350,000株
	A種優先株式	10,000株
発行済株式の総数	普通株式	12,051,384株
	A種優先株式	265株
株主数	普通株式	8,187名
	A種優先株式	1名

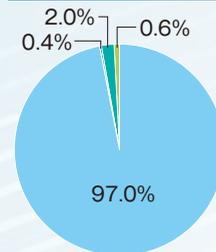
注:A種優先株式は、2024年4月30日付けで近畿中部広域復興支援投資事業有限責任組合から、株式会社西松屋チェーンへ譲渡されました。

## 大株主 (2024年8月20日現在)

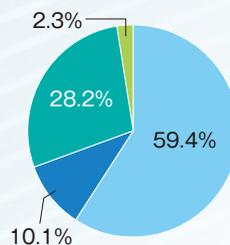
株主名	普通株式 持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社西松屋チェーン	2,087	17.35
GMOクリック証券株式会社	491	4.08
東京短資株式会社	355	2.95
上田八木短資株式会社	299	2.48
トラストワークスプランニング株式会社	285	2.37
個人株主A	280	2.33
個人株主B	200	1.66
日本証券金融株式会社	181	1.51
JPモルガン証券株式会社	172	1.43
パレモ従業員持株会	171	1.42

注:持株比率は、当中間会計期間の末日における発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する割合であります。

## 株主構成 (2024年8月20日現在)



株主数構成比	株主数	構成比
個人株主その他	7,938名	97.0%
証券会社・金融機関	32名	0.4%
その他国内法人	165名	2.0%
外国法人・個人	52名	0.6%
合計	8,187名	100.0%



株式数構成比	株式数	構成比
個人株主その他	7,152,691株	59.4%
証券会社・金融機関	1,213,927株	10.1%
その他国内法人	3,398,843株	28.2%
外国法人・個人	285,923株	2.3%
合計	12,051,384株	100.0%

事業年度	毎年2月21日から翌年2月20日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会・期末配当金／毎年2月20日 中間配当金／毎年8月20日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
公告方法	電子公告により行ないます。 <a href="https://www.palemo.co.jp/">https://www.palemo.co.jp/</a>

※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人および事務取扱場所	愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-782-031

## 株主優待

当社は株主優待制度として、毎年2月20日現在の株主様名簿に記載された300株以上保有の株主の皆様に対し、株主様ご優待品を進呈いたしてまいりましたが、2022年6月28日付の開示でお知らせしましたとおり、現在の経営環境並びに将来への成長投資に向け、財務状況を改善することが最優先課題であると考え、慎重に議論を重ねました結果、2023年2月20日を基準とする株主優待より休止しております。

今後も株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置づけ、企業価値向上に取り組むとともに、株主優待制度につきましては、業績の安定化並びに財務状況の改善を成し遂げたのちに再開させて頂く予定です。

株主の皆様におかれましては、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

## 報告書WEB化のお知らせ

株主の皆様へご送付しておりました報告書につきましては、地球環境等を配慮した省資源化の観点から、第39期第2四半期より紙面による発送を取り止め、当社ウェブサイト(<https://www.palemo.co.jp/ir/stockholders.html>)に掲載しております。株主の皆様におかれましては、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

## 上場株式等の配当等に係る10%（所得税7%、住民税3%）軽減税率の廃止について

2014年1月1日から上場株式等の配当等に係る10%軽減税率（所得税7%、住民税3%）は廃止され、本来の税率である20%（所得税15%、住民税5%）となりました。これにより、2014年1月1日から2037年12月31日までは「復興特別所得税」を含め20.315%の源泉徴収税率が適用されます。

## 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、左記電話照会先までご連絡ください。

## 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といえます。）を開設しております。

## 株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

[主な支払調書]

- \*配当金に関する支払調書
  - \*単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書
- マイナンバーの利用範囲には株式の税務関係手続きも含まれます。株主様は、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届けください。

## 株式市場移行のお知らせ

当社株式は、東京証券取引所並びに名古屋証券取引所の市場再編により、東京証券取引所市場第二部からスタンダード市場へ、名古屋証券取引所市場第二部からメイン市場へ移行いたしました。

## 愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成20年2月15日

登録番号 C0024

仕事と生活の調和のとれた働き方ができる職場環境づくりに取り組む  
愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。